

第六講 シュメール人の歴史と社会

【レジメ講評】

課題：「メソポタミアで農業を行うには、何が必要なのか。またその理由を述べよ。」

前回の授業で行なった内容を簡単に書くというレポートであった。つまり復習をすれば簡単に書けるレベルの課題である。

メソポタミアで農業を行うには極度に乾燥しているという気候風土から灌漑農業を行わざるを得ず、そのためにティグリス川から運河によって水を引いて大地を潤し、ユーフラテス川に排水する必要がある、という答えが平均的なところか。問題は降水量と蒸発量との関係にあるので、夏季の高温に言及してレポートは乾燥の問題を降水量と気温という二つの変数から考察するものとして評価できるが、そのようなレポートは少なかった。

しかしメソポタミアを不毛の大地に変えてしまっている塩地化の問題に言及しているレポートはもっと少なかった。土地の乾燥は大量の塩分を含む地下水の上昇を促進し、深刻な塩害をもたらしてきている。このような現象は既にシュメール人たちの時代に見られ、もう一つの灌漑の目的は地下水の上昇を抑え、大地に残されている塩分を希釈して塩地化を抑制するというところにあるが、このことへの言及はほとんどなかった。

さらに運河や水路によって大地に水を供給し、塩分を大量に溶かし込んだ水をユーフラテス川に排出するために、運河や水路の保守、とりわけ運河などの底に溜まる土砂の浚渫、つまり川浚いを頻繁に行うことが求められる。このことへの言及は更に少なかった。

あるいは乾燥と塩分に強い大麦のような品種の作物への言及、集団労働によって運河網を維持し、官僚制によるコントロールの必要性への言及も求められるが、このような事項への言及はなかった。

何れにせよ、復習がホームワークとして十分に行われていないように判断される。これからも予習型のレポートと復習型のレポートを適度に織り交ぜて課すので、しっかりと予習・復習を済ませておくことが重要である。

【レポート課題】

「シュメール人について知っていることを述べよ」

人口：100 万人以上（自由人）

都市国家はモザイク状に点在

20 キロ間隔

ウルから南のエリドゥが見える

ウル：最大の人口（ウーリーは 36 万人、フランクフォートは 20 万人と推定）

シュルパック：16 万人

ラガシュ：10 万人

地積：12,579 平方キロ（アッカド時代の碑文より）

17 の行政区と 8 つの行政区 *maš-ga-na sag*

ラガシュ：1,572 平方キロ

都市複合体

ラガシュ：ラガシュ・ニーナ・ギルス・エニンマルなど

神殿領：エンリル神・バウ神などの神殿領

王領

私有地

初期王朝期（2800～2350 年ころ）

第一期（2800～2700 年ころ）

en（王）：

nam-en

lúgal（大君）の出現

官僚機構

レーエン制

王領地：*a-ša lúgal, a-ša é-lúgal*

社会組織：*en unkin-gal ab-(ba)-ní-ru-a ab*

王 氏族連合長 氏族長 家長
uru unkin ní-ru-a é

集団労働組織＝軍事組織

nu-bánda—ugula—erín/ bir/ un-sìr-ra

数百人 数十人

都市同盟の結成

異民族に対して

ケンギル同盟：ウル・ウルク・アダブ・ニップール・ケシュ・ラル
サ・xの7都市

都市間の抗争は見られず

第二期（2700-2500年ころ）

城壁の一般化

覇権をめぐる都市間の抗争→同盟の結成

キシユの覇権（有力都市の出現）

エンメバラゲシの实在

『ギルガメシュ神話』（古バビロニア時代）

アッシュール・バニパルの大図書館

12話、約3500行

1867年、シドニー・スミスの解説

洪水伝説（第11話）

ギルガメシュ（ウルクの王）の暴政

エンキドゥとの争い

フンババ退治

エンキドゥの死

永遠の命を求めて→ウトナピシュティム（キシユの
王）

ギルガメシュとアツガ

『シュメール王名表』（イシン・ラルサ時代の前19世紀）

ウルク第1王朝

第2代 エンメルカル 「ウルクを建設したウル

クの王」

第3代 ルーガルバンダ 1,200年

第5代 ギルガメシュ 126年

↓

実在

エリドゥ→シッパル→シュルパーク・・・洪水：8代 24万 1200年
キシユ（22代目のエンメバラゲシ→アッガ）→ウルク→ウル（メス
アンネパッダ→メスキアグヌンナ→エルル→バルル）・・・

エンメバラゲシの名前を記した同時代の壺

メスアンネパッダの名前を記した印章

同時代の史料によってその実在が証明

キシユの覇権→「キシユ王」の称号を覇者が名乗るようになる

有力都市国家間の争い→疲弊

末期ノシュルツパーク文書

ensí

guruš の大部隊 680 名、戦場へ出動

戦車の修理

都市同盟（ウルク・ニツプール・シュルツパーク・

ラガシュ・ウンマ）

同盟軍 733 名 max アダブ 215 名

min シュルツパーク 66 名

第三期（2500～2350年ころ）

ラガシュとウンマの9代に亘る争い（シュメール都市国家間の関係
をよく示している）

国境の土地と水路をめぐる対立

史料：Eannatum の丸石碑文

Entemena の円錐碑文

ウル・ナンシェ朝

ウル・ナンシェ 王朝創設

ウンマと国境地帯の耕地をめぐる争い

- キシュの王、メシリムの調停
- アクルガル 外敵（エラム人？）の侵入→国土の相当部分を破壊される
- エアンナトゥム (1) ギルスの復興
ニーナを造営
- (2) エラム遠征
- (3) ウンマのエンシ、ウシュ、メシリムの調停
破棄→ラガシュに侵入→撃破→ウンマを攻撃
ウンマのエンシ、エンアカルレと講和
グ・エディンナを奪回
賠償 大麦 14 万 4 千大グル (1 万 7424kl)
国境を画定
- (4) ウルク・ウル・キワトゥ・ウルアズを攻撃
ミシメを略奪
- (5) アクシャクのズズが反ラガシュ同盟結成
アクシャク・エラム・シュブル・ウル
ア／キシュ・マリ
反ラガシュ同盟軍の侵攻→ニンギルスの
アンタスッラ神殿付近で撃破
エラム人を撃破・アクシャク軍を撃破
アスフルを基地にエラム・シュブル・ウル
アを攻撃
アンタスッラを基地にキシュ・アクシャ
ク・マリを攻撃
- ↓
- ズズ滅亡
「キシュの王」を名乗る
- (6) ルンマギムドゥクの貯水池を建設
諸神殿の造営

エンアンナトゥム	<p>ウンマ、賠償義務の不履行</p> <p>ウンマのエンシ、ウルルンマ</p> <p>講和条約破棄</p> <p>境界線破棄</p> <p>反ラガシュ同盟結成</p> <p>ラガシュ侵攻（戦車 60 台を随伴）</p> <p>ウギカ農場で決戦</p> <p> エンアンナトゥム戦死</p>
エンテメナ	<p>ウンマ軍撃破</p> <p>ウンマ軍をウンマまで追撃</p> <p> ウルルンマ戦死</p> <p>ウンマのエンシ、イルと講和</p> <p> 境界線：ニンギルス及びナンシエ</p> <p> の水路</p> <p> 賠償金</p> <p>ウンマの不履行</p> <p>ティグリス川からイド・ヌン運河まで</p> <p> 水路建設→戦争回避</p> <p>ナムヌンダキガツラ神殿造営</p> <p>ウルクのエンシ、ルーガル・シェドゥ</p> <p> ドゥと兄弟の契り</p>
エンナンナトゥム 2 世	ウル・ナンシエ朝の衰退～滅亡
エンエンタルジ	ニンマル神のサング出身
ルーガルアンダ	神殿領を王領地に編入（名前だけ）
ウルカギナ	<p>改革断行→国家再建の目論見</p> <p>略奪された神殿領は旧状に帰す</p> <p>弱者圧迫の禁止</p> <p>収税吏による圧迫禁止</p> <p> ↓</p> <p>農民軍の回復を試みる</p>

治世4年 ウンマのルーガルザギシと
の争いに敗れる
ラガシュ全土の破壊